

# News Release

2019年3月19日  
NITE（ナイト）  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
製品安全センター（東京）

## 春本番、自転車の思わぬ事故に注意！ ～関東甲信越における事故を中心に～

### 1. 関東甲信越地方の自転車による事故

#### （1）年度別事故発生件数と被害状況

2013年度から2017年度までの5年間でNITE（ナイト）が収集した製品事故情報<sup>※1</sup>において、関東甲信越地方の1都9県（茨城県、群馬県、埼玉県、山梨県、新潟県、神奈川県、千葉県、長野県、東京都、栃木県）で発生した自転車<sup>※2</sup>による事故は計167件ありました。また、進学や通勤などで自転車に乗り始める方が多い4月から5月の間に製品事故が最も多く発生しています。自転車による事故について、関東甲信越の月別事故発生件数を図1、都県別の年度別事故発生件数を表1、被害状況別事故発生件数を表2、原因区分別事故発生件数を表3に示します。

※1 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2 自転車には自転車用幼児座席を含む。詳細は別送 News Release（全国版）を参照。

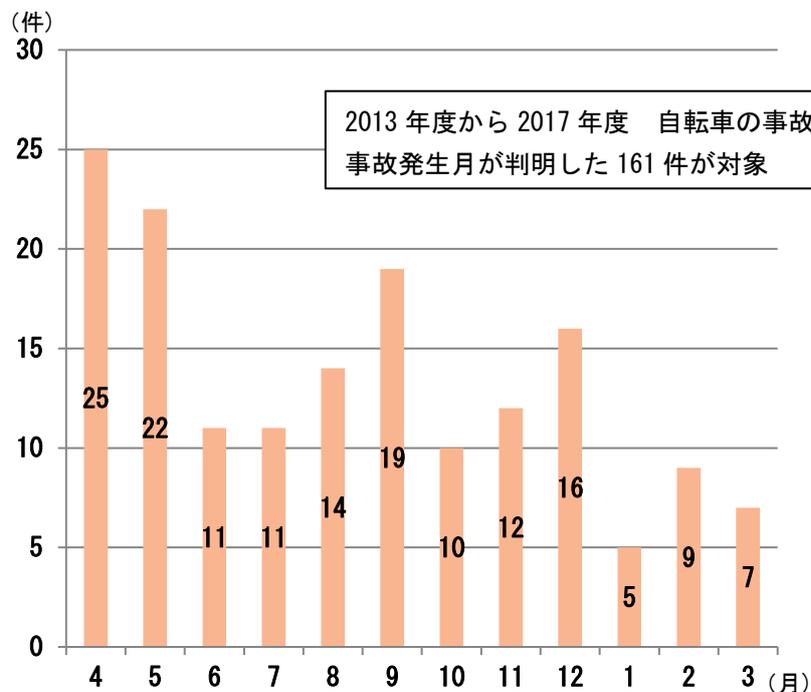


図1. 月別事故発生件数(関東甲信越地方)

表 1. 年度別事故発生件数

		茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
事故発生年度	2013年度	1	2	10	4	4	19		3			43
	2014年度			5	2	4	22				1	34
	2015年度	1		2	5	3	15		1			27
	2016年度			3	7	2	17		1	1		31
	2017年度	3		4	5	2	17		1			32
合計		5	2	24	23	15	90	0	6	1	1	167

表 2. 被害状況別事故発生件数<sup>※3</sup>

			茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
被害状況	人的被害	重傷	1	2	5	10	7	34		3	1		63
		軽傷	1		13	9	6	26		2		1	58
	物的被害	拡大被害			2	2	1	6					11
		製品破損	2		4	2	1	23		1			33
	被害なし		1					1					2
合計			5	2	24	23	15	90	0	6	1	1	167

※3 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表 3. 原因区分別事故発生件数

区分	事故原因区分説明	茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
製品に起因する事故	A 設計、製造又は表示等に問題があったもの	2		3	3	1	22		1	1		33
	B 製品および使い方に問題があったもの			1	1		7					9
	C 経年劣化によるもの											0
	G3 製品起因であるが、その原因が不明のもの			2	1		12					15
	小計	2	0	6	5	1	41	0	1	1	0	57
製品に起因しない事故	D 施工、修理又は輸送等に問題があったもの				1		2					3
	E 誤使用や不注意によるもの		1	2	2		3					8
	F その他製品に起因しないもの			2	1	4	5		3			15
	小計	0	1	4	4	4	10	0	3	0	0	26
その他	G 原因不明なもの	1	1	13	11	6	24		1		1	58
	H 調査中のもの	2		1	3	4	15		1			26
	小計	3	1	14	14	10	39	0	2	0	1	84
合計		5	2	24	23	15	90	0	6	1	1	167

原因区分別事故発生件数（表 3）でみた場合、消費者の誤使用や不注意による事故（E 区分）が 8 件あります。これらの事故は、製品の取扱方法を正しく認識して使用することで未然に防ぐことができます。事故防止のための注意事項として別送 News Release（全国版）の「気を付けるポイント」をご参照ください。併せて、製品に起因する事故（A、B、及び G 3 区分）の未然防止については、特にリコール対象製品による事故も発生していますので、お使いの製品が、社告・リコールの対象となっていないかご確認ください。

## (2) 関東甲信越地方において発生した事故の事例

### ① ねじの締め付け不足による事故

・ 2016年9月、神奈川県、重傷

(事故内容)

自転車で走行中、サドルを固定しているねじが破損し転倒、右腕を負傷した。

(事故原因)

使用者がサドルの傾斜調整をした際、サドルとシートポストを固定するねじの締め付けが不足していたため、使用中にねじが緩んでガタツキが生じ、ねじに過大な負荷が加わって、疲労破壊により破損に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない。」、「必ず乗る前に点検する。」旨、記載されている。

### ② ブレーキの不具合による事故

・ 2017年7月、東京都、重傷

(事故内容)

自転車で下り坂を走行中、転倒し、負傷した。

(事故原因)

自転車のブレーキの主要部品に異常は認められなかったこと及びブレーキシューブは摩耗していたがブレーキワイヤーの張りを調整するとブレーキが正常に機能したことから、雨でぬれた坂道をブレーキの調整が必要な状態で乗車したため、ブレーキが利かない状態になり、転倒したものと推定される。

### ③ リコール製品による事故

・ 2017年4月、神奈川県、拡大被害

(事故内容)

自転車保管場で自転車用のバッテリーを前かごに入れていたところ、自転車及び周辺を焼損する火災が発生した。

(事故原因)

バッテリーの結露対策が不十分であったため、制御基板上の絶縁性能が低下し、異常発熱して周辺の焼損に至ったものと推定される。

なお、輸入事業者は、事故の再発防止を図るため、2014年12月15日にホームページに情報を掲載し、対象バッテリーについて無償で製品交換を実施している。

## 2. 自転車による事故の再現実験映像について

以下の映像をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

### (1) 実験映像内容

- ① 自転車「8. クイックリリースが緩み、車輪が外れる」(2. (2) 写真1)
- ② 幼児座席を取り付けた自転車のふらつきと傘の巻き込み(2. (2) 写真2)

### (そのほか)

- ③ 自転車「1. 折り畳み式自転車の事故」
- ④ 自転車「2. ペダルの外れ」
- ⑤ 自転車「3. 前輪ブレーキの外れ」
- ⑥ 自転車「4. 泥よけの巻き込み」
- ⑦ 自転車「5. チェーンの外れ」
- ⑧ 自転車「6. 様々な巻き込み事故」
- ⑨ 自転車「7. 子どもが自転車で指を切断」
- ⑩ 自転車用幼児座席「1. 子どもの足が後輪に挟まれる」
- ⑪ 自転車用幼児座席「2. 子どもが落下」

## (2) 実験映像例

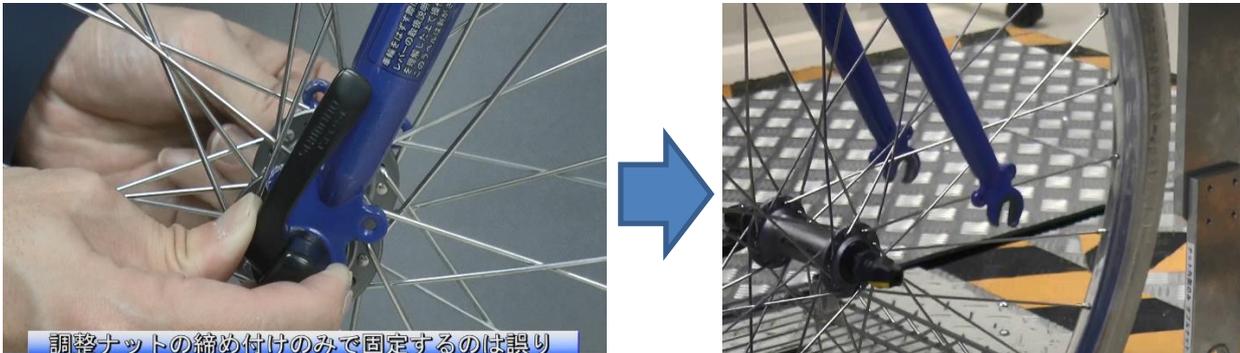


写真1. クイックリリースが緩み、車輪が外れる

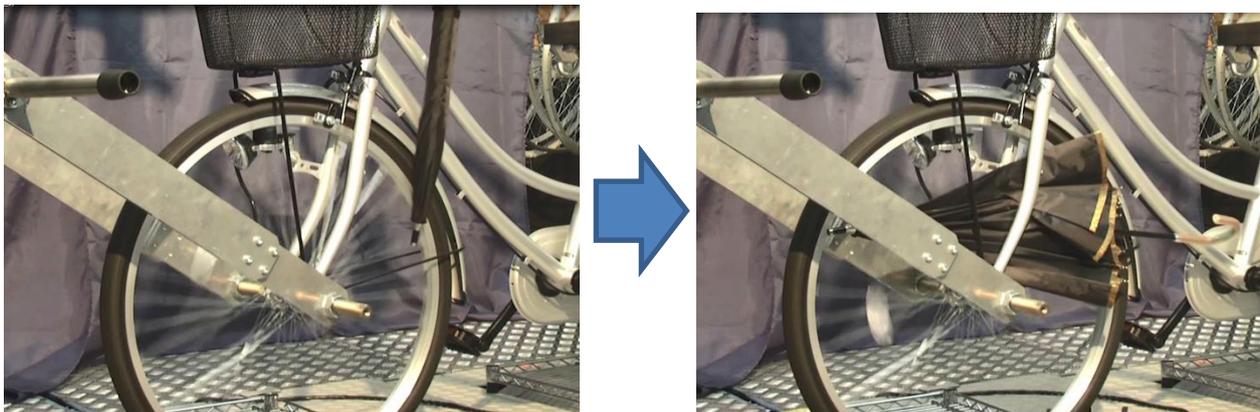


写真2. 幼児座席を取り付けた自転車のふらつきと傘の巻き込み

(本件に関する問い合わせ先)

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センター 技術業務課

担当者：松本（まつもと）、有山（ありやま）、佐藤（さとう）

電話：03-3481-1820